

[花き部門 平成 30 年度 指導参考資料]

事 項 名	リンドウにおける立枯病（仮称）の特徴		
ね ら い	平成 28 年に県内のリンドウで立枯症状を示す株が持ち込まれた。病原を調査した結果、新たな病原によって引き起こされる「リンドウ立枯病（仮称）」によるものであることが明らかとなったので、その特徴を示し、診断と防除対策上の参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 発生状況 発生地点：津軽地域 1 地点 1 農家圃場 作型：露地栽培（平成 25 年 5 月下旬定植） 時期：平成 28 年 5 月中旬 品種：「スカイブルーしなの 4 号晩々性」他 4 品種 発生割合：20～53%</p> <p>2 病徴 地上部は、地際部付近の茎が褐変し、下葉からの枯れ上がりがみられ、株が枯死する場合もある（写真 1）。地下部は、地際部付近の根茎が褐変腐敗し（写真 2）、褐変は外側から内部に向かって進行する（写真 3）。地上部症状は褐色根腐病に類似するが、本病害は主に地際部付近に褐変腐敗が認められるのが特徴であり、褐色根腐病のような根部全体の褐変腐敗は少ない。</p> <p>3 病原菌 病斑部から分離した菌について、培養菌糸による菌体付着接種、分生子等形態の観察、遺伝子塩基配列の比較、トルコギキョウおよびコムギに対する病原性確認を行った結果、病原菌は <i>Fusarium avenaceum</i> と同定された。この菌は土壌伝染性の病原菌であるため、被害植物残渣とともに土壌中に残り、寄主植物の栽培にもなって孢子が発芽し、地下部に感染する。</p> <p>4 防除対策 （1）連作を避け、栽培圃場は水稻作付け直後の転作畑を選定する。 （2）被害株は早急に抜き取り、作物を植えない場所に埋める等適正に処分する。 （3）機械作業等による汚染土壌の移動を防ぐ。 （4）発病圃場で使用した資材は、廃棄するか丁寧に土を洗い落とす。</p>		
期待される 効 果	リンドウにおける立枯病の原因と特徴を明らかにすることにより、早期発見が可能となり、被害拡大を防止することができる。		
利 用 上 の 注 意 事 項	「リンドウ立枯病」の新病原とすることを提案している。		
問い合わせ先 （電話番号）	農林総合研究所 病虫部（0172-52-4314）	対 象 地 域 及び経営体	県下全域のリン ドウ作付経営体
発表文献等	平成 28～29 年度 試験成績概要集（農林総合研究所） 平成 29 年度日本植物病理学会東北部会		

【根拠となった主要な試験結果】



写真1 リンドウ立枯病発生圃場（平成28年5月12日撮影）（平成28年 青森農林総研）



写真2 リンドウ立枯病罹病株の症状（全体）（平成28年5月16日撮影）（平成28年 青森農林総研）



←写真3 リンドウ立枯病罹病株の症状（根茎部の横切断）（平成28年5月16日撮影）（平成28年 青森農林総研）



健全株

罹病株

写真4 接種によるリンドウ立枯病の発病（平成29年6月19日撮影）（平成29年 青森農林総研）

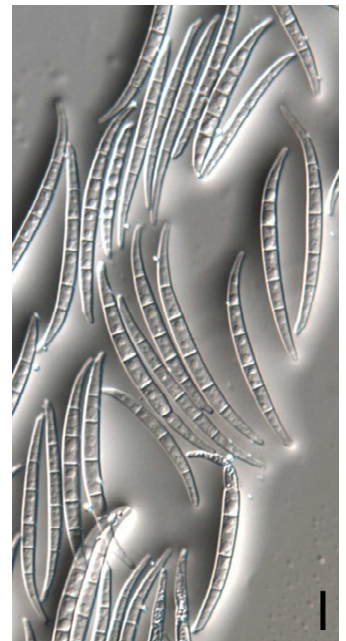


写真5 リンドウ立枯病菌の鎌形分生子（平成28年12月5日撮影、バーは10 μ m）（平成28年 青森農林総研）